

令和4年度 学校評価報告書

令和5年3月20日

北海道教育委員会教育長 様

北海道大樹高等学校長

前 田 英 伸 印

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度のスクールポリシー

○育成を目指す資質・能力に関する方針
(1) 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を、支える人材となる生徒（共生）
(2) 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒（共創）
○教育課程の編成及び実施に関する方針
(1) 授業のユニバーサルデザイン化の深化を通じ、主体的に学ぶ姿勢の向上と個に応じた最適な学びの実現による基礎学力の定着に努める。（大樹スタンダードの確立）
(2) 教科横断と地域協働による課題解決型学習の改善・充実を通じ、思考力・判断力・表現力の伸長と自ら社会的課題の解決へ参画しようとする態度の育成に努める。（地域探究学習「大樹学」の推進）
○入学者の受入れに関する方針
(1) 多様性や共生社会について興味・関心を持ち、様々な人々との協働をとおして、自他を尊重する豊かな心を身につけようとする生徒（共生）
(2) ふるさとに愛着を持ち、本校の探究学習をとおして、主体的に地域の課題解決に取り組もうとする生徒（共創）

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○生徒の授業の満足度は高評価であり、授業改善は、共通理解のもと、学習環境の整備や個に応じた創意・工夫等、着実に進めることができている。 ○新しい学びに合わせた授業や評価方法の改善は組織的に進めることができている。 ○探究活動の生徒の満足度は高く、発表会を見学した生徒や町民からも高評価であった。 △必ずしも授業改善が主体性の育成につながっていないという課題が認められる。 △家庭学習習慣が十分ではない。 △探究活動の成果を社会で実践するためには単年度での取り組みで終わるのではなく、年度をまたいだ継続性が必要になる。	○授業の様子や印象に残ったことなどを家庭で話すことが多くなっている。 ○定期考査がなくなっても、成績評価の理由や原因を生徒が理解しており、適正に行われている。 △授業内容は、なるべく個々の生徒に合わせたものになるように、生徒に寄り添った工夫をして欲しい。 △定期考査がないためか、家庭で自ら進んで勉強している様子が見られない。 △探究活動で良い実践をしているいても、地域に伝わっていない。積極的な情報発信について検討が必要。
改善方策	・教員の異動等も踏まえ、組織的に授業におけるユニバーサルデザイン化が維持・深化を進められるよう、研修の強化に努める。 ・探究学習と教科横断等的な学習とが、学びに向かう姿勢を育てることに結びつくよう、シラバスやルーブリックの検証・改善を行う。 ・T-Plus（週1回放課後の進路講習・活動）の活用や家庭学習を促す取り組みなど、生徒自身が主体的に学ぶための手立てを強化する。 ・地域探究活動を学年横断で実施できないか検討する。系統的な活動になるよう工夫・改善に努める。	
生徒指導	○指導を受ける生徒は少なく、身だしなみについては学校評価でも高い評価である。 ○年2回の面談週間、長期休業明け生活アンケート、定例サポート委員会の活動等教育相談体制は機能している。 ○コミュニケーションスキルトレーニングが機能し、望ましい人間関係の構築に効果を上げ、いじめ未然防止にも結びついている。	○生徒達が安心して学校生活を過ごすことができおり、落ち着いた学校の様子が伝わってくる。 ○互いを大切にする人間関係を築くことができている。 ○コロナ渦ではあったが、学校行事や生徒会活動等に積極的に取り組んでいる様子が伝わってくる。

	○小学校やこども園との協働等、感染症対策を講じながら進めることができた。参加した生徒の自己有用感を高めさせることができた。 △自己管理の面で自律できていない生徒も一部見受けられることから、基本的な生活習慣について継続した指導が必要になる。	△ボランティア活動や地域活動に高校生が多く参加して欲しい。
改善方策	・「市民性」を意識させながら、自己管理や自律心の成長に資する行事等の実施を進める。規則正しい生活習慣と身だしなみについての指導を継続していく。 ・年2回面談週間を設定し、面談時間をしっかり確保できるよう分掌間で調整を図る。長期休業明け生活アンケート、定例サポート委員会も継続し生徒理解に努める。 ・コミュニケーションスキルトレーニングの実施にあたっては、主担当者に業務が偏ることのないよう、全職員で取り組む意識をさらに徹底する。作成した指導案、教材等は次年度以降も活用できるようデータで保存する。 ・地域協働活動等への参加を促し、帰属意識や社会性の育成を図る。	
進路指導	○関係機関や地域との連携を密に図り、キャリア教育を組織的に進めることができた。 ○総合型入試についての校内研修会を実施し、新しい入試制度について理解を深めた。 ○総合的な探究の時間を中心に、各教科多文化共生に基づき、協働社会を形成する一員を意識した取り組みができている。台湾見学旅行が中止となったが、校内企画により意識高揚を図ることができた。 △個別最適化を進める上で、各種検査・模試等データを活用した進路指導を進めていく必要がある。	○学校でのキャリア教育を通して、将来についての具体的な情報を収集している様子が家族への会話や相談から伝わってくる。 △進路実現のために具体的な目標を立てて学習等をしている様子が見えてこない。
改善方策	・関係機関の支援を得て、生徒の進路希望に応じた個別最適化をさらに進める。多様な生徒の進路実現に対応するため、校内研修会を企画・実施する。 ・保護者への情報提供の場として、学年毎の進路講話を検討する。 ・学校全体として蓄積された生徒個々のデータを活用しながら、個別最適な指導に取り組む。 ・多文化共生社会への理解と協働する心、行動力の育成は、本校の特色ある教育の柱として、重点を置いて取り組む。（総合的な探究の時間・各教科・2学年台湾見学旅行等）	
地域協働による魅力ある学校づくり	○地域の協力を得て、探究学習を具体的に進め、成果を得ることができた。この取組を通して、地域づくりに学校・生徒が参画していけるよう、工夫・改善を進める。 ○室蘭工業大学との高大連携を具体的に進めることができた。 △本校の特色・魅力への理解を深めるための情報発信と地域への丁寧な説明、広報活動の充実が必要である	○学校生活を楽しく過ごしている様子が伝わってくる。 △広報活動について、SNSや動画配信サイトの活用による積極的な発信を検討するなど、PR方法の工夫・改善が必要。 ・高校入試の出願者が増えたことは嬉しい。新入生にアンケートを実施し、なぜ、地元の高校を選択したのか検証してもらいたい。
改善方策	・総合的な探究の時間のシラバスとルーブリックの見直しを行う。 ・地域に向けた発表会を実施し、本校の教育内容についてより多くの情報を広く発信できるよう工夫する。 ・次年度も室蘭工業大学との連携授業を継続していく。教科との連携も含めた授業計画を立て、教科横断的な学習の深化を図る。 ・スクールポリシーの具現化を目指した学校経営を実施し、いっそうの学校魅力化・特色化を図る。	
公表方法	・自己評価、保護者評価、生徒評価を学校運営協議会において、資料に基づき報告した。 ・学校評価報告書、自己評価、保護者評価、生徒評価を学校ホームページにて公開した。	